

第 83 回 大航海時代②

1 スペインと「新大陸」

・一方ポルトガルにおくれをとったスペインは、ポルトガルとは別のルートでインド（スペイン語でインディアス）へ到達しようとしていた。

- ・そのころジェノヴァ出身の船乗り（ ）は、トスカネリの「地球球体説」を信じ、西まわりでインドに行けると主張していた。
→スペインの女王（ ）の援助を受けた。



コロンブス

有名な割には謎の多い人物で、彼の前半生はわからないことだらけである。イタリア出身ではないという説や、ユダヤ人説まである。



ジェノヴァ

ジェノヴァは地中海に面するイタリアの都市。当時はジェノヴァ共和国という独立国であり、地中海貿易で栄えてきた。



スペイン女王イサベル

もとはカスティリヤの王女で、アラゴンのフェルナンドと結婚した後、共同のスペイン王となっていた。第 48 回を復習。

- ・（ ）年、コロンブスは、スペインのパロス港を出港し、大西洋を横断してバハマ諸島の（ ）に到達した。
→コロンブスは、到達した場所を死ぬまでインドだと思っていた。
→そのため、コロンブスが到達した島々をまとめて（ ）といい、現地人は今でも「インド人」と呼ばれている。



パロス港からの出発

3隻の船に 90 人が乗った。コロンブス一行の中には囚人なども多く、航海中には暴動も発生した。



サンタ=マリア号の模型

ナオ(カラック)と呼ばれる長さ 18m の船で、それほど大型船というわけではない。鄭和の宝船は、これの7倍もあった。



コロンブスの「新大陸」到達

サンサルバドル島に上陸するコロンブス。これ以降にスペインが新しく支配した地域を総称して、インディアスと呼ぶ。

2 探検者たち

・コロンブスの成功がヨーロッパに伝わると、次々に新たな航海者・探検者たちが同じ様な成功を求めて、西へと出港していった。

- （ ）…イタリア人。コロンブスが到達した土地を調査し、そこがインドではなく「新大陸」であることを明らかにした。
→彼の名前から、「新大陸」は（ ）と呼ばれた。

カボット父子 …イタリア人。イギリス王の命で北アメリカの探検を行った。

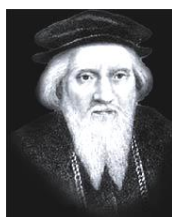


アメリゴ=ヴェスプッチ

フィレンツェの探検家・商人で地理や天文に通じていた。「アメリカ」というのは、彼の名前のラテン語読みである。



カボット(父)



カボット(子)

父子で探検家。父のジョヴァンニはヘンリ7世の命で、息子のセバスティアノはヘンリ8世の命でアメリカ探検を行った。



イギリス王ヘンリ7世

バラ戦争を終結させて、テューダー朝を開いたイギリス王。持病の痛風に苦しんだ。第 64 回を復習しよう。

- () …スペイン人。1513年、() を横断して、アメリカ大陸の向こう側に海があることを発見した。
- () …ポルトガル人。スペインのカルロス1世の援助を受け、南アメリカ南端（マゼラン海峡）をまわり、() に出た。
→初めて西まわりでアジアに達したが、フィリピンで殺された。
→部下たちは西に進み、初めて() を成し遂げた。



バルボア

彼の探検は、略奪や虐殺が多く、評価は高くない。最後は反逆罪で処刑された。ピサロはこの時の部下である。



マゼラン

マガリヤニスと書かれることもある。また太平洋という名前は、マゼランがつけたものである。バルボアが「南の海」とつけていたが、マゼランが改名した。



ラブラブ

マゼランを殺したマクタン島のラブラブ王は、フィリピンでは侵略者を撃退した英雄とされており、記念祭まで行われている。

3 スペインとポルトガルの世界分割

・スペインとポルトガルは、新しく発見した領土を、どちらのものにするかについて、交渉を続けていた。

- ・1493年、ローマ教皇アレクサンデル6世の仲介で、植民地分界線（教皇子午線）を決めて、東側をポルトガル領、西側をスペイン領とした。
→1494年、ポルトガルの抗議で新たに() を締結した。
- ・1529年、サラゴサ条約によって、アジアにおける植民地分割ラインを決めた。



カブラル
どうも計画的な漂着だったらしい。

<ポルトガルとブラジル>

- ・1500年、ポルトガル人の() は、インドへ向かう途中嵐によって偶然？() に漂着した。
→トルデシリャス条約にしたがって、ポルトガル領となった。
→現在ブラジルは、南アメリカで唯一ポルトガル語を公用語としている。

